

平成20年度 室戸市立三高小学校 学校評価ガイドラインに基づく評価のための項目・指標

A(十分達成) B(ほぼ達成) C(やや不十分) D(改善を要する)

学校教育目標 ~かがやけ三高の子~ 一人ひとりの個性と能力の伸長を図り、健康で、自ら学び自ら考え行動する力をもった心豊かな児童を育成する。

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	評価指標(目標に向けた具体的な取り組み)	達成状況	改善方策	外部アンケート
教育課程・学習指導	B	基礎基本の定着と学力の向上 自主的・協同的学習態度の育成	わかる楽しい授業づくり 基礎基本の定着と学び方を学ぶ時間の充実 自分で課題を見つけて取り組む自主学習習慣の育成と充実	1単位時間の授業構成とその展開の在り方について研究し、達成感のある授業を行う。 【授業評価・授業アンケート】 みたかタイム、パーフェクトの時間の充実を図る。 【学校評価アンケート】 予習・復習をふまえた自主学習の内容充実を図る。 【児童アンケート・生活アンケート】	算数科では大学教授の指導のもと、授業研究を全学級で8回実施し、授業改善を行うことにより、児童の解法に導く思考の深まりが見られた。児童の実態に応じた教材の工夫や、SSTを取り入れた英語学習などにより、意欲的に取り組む学習環境づくりが進んだ。 室内式チェックテストを実施・分析し、個のつまずきや学級の課題を把握し、基礎学力の定着と授業の工夫改善が図れた。 自主学習ノートを活用して個に応じた支援を行い、読書も位置付けることができた。	国語科の先進的な実践を取り入れ、工夫改善を図る。各授業において積極的にコミュニケーションを図る場を設定し、表現力の向上を図る。 みたかタイムをより効果的な取り組みにするために、定期的に教材の工夫や内容の見直しを行い、時程も工夫する。 生活改善の取り組みと連携させながら、家庭学習習慣の定着と学習内容について、個に応じた指導と支援に努める。	・教育活動に満足している。 ・学力向上などとても力を入れている。 ・常に教育活動の充実向上を目指して努力されていることに感謝し、かつ校下の一員として感謝している。 ・夏休み中に水泳や器械体操に取り組んで頂いているのは、とても良いことなので、今後も継続してほしい。少人数での各個人の弱いところに配慮し、指導をしてほしい。学力がいき将来の自分たちに必要なものを具体的に指導してほしい。
生徒指導	A	基本的な生活習慣の確立を目指す。	望ましい生活習慣の確立及び継続を図る。 保護者と協同した取り組みを進める。 生活実態調査の活用を図る。	早寝・早起きなど生活リズムの確立及び継続と、朝食メニューの改善を図る。 【元気モリモリカード】 元気モリモリカード・生活時間の記録等を活用し、保護者と協同した取り組みを行う。【元気モリモリカード、生活時間の記録】 生活実態調査をもとに家庭生活の改善を図る。【生活アンケート】	生活リズムの確立に向けた取り組みを継続して行った。朝礼での表彰などにより、意識の向上が図れた。 新たに生活リズムチェックカードを取り入れ、更なる協同ができた。 アンケートをもとに、分析・啓発を行い、課題改善に向けた取り組みを進めることができた。	テレビやゲームの時間を減らし、改善の必要な児童へ細やかな指導を行う。 元気モリモリカードの工夫や改善を図る。 保護者から毎日の子どもの良かったところのコメントを頂き、良さを認め自己肯定感や自尊心を高める。 年に1回の取り組みだが、長期休業前など、適宜、啓発を行っていく。	・生活改善の取り組みを進め、早寝早起き朝ごはんなど良い習慣が身につけて来良かった。 ・一人ひとりに目が届き安心できる。 ・挨拶運動や生活改善などたくさん良い取り組みができています。 ・ゲームの時間が多いと感じられる。 ・子どもたちには健康に留意して規律正しいリズミカルな活動を継続して行って欲しい。
保護者・地域との連携	B	開かれた学校運営を目指す。	開かれた学校づくりの推進 学校運営への保護者・地域の方の参画の推進を図る。	学校の取り組みを学校だより、学級だより、保健だよりで情報発信を積極的にを行う。 【学校評価アンケート】 家庭・地域との協力体制の強化を図る。【学校評価アンケート】	各種通信などにより、学校行事や授業の様子、児童のノートづくりなど、わかりやすい情報を積極的に発信できた。 開かれた学校づくり推進委員会等により、保護者や地域の方と、児童との情報交換が深まり、学校や地域のそれぞれの活動に対する理解の深化と積極的な参加ができた。	関心を持ってもらいやすい内容を掲載し、現在の取組の継続と充実を図る。 学校だよりで返信欄を設けるなど、双方向性による連携の強化を図る。 地域の方を講師に招くなど、交流や連携を進める。 家庭や地域の方の声を生かした学校教育活動への理解と支援をお願いする。	・児童が伸び伸びと明るく学校・地域・家庭が一体化し、理想の学校づくりに邁進している。今後も、感性豊かな教育を願う。 ・運動会など保・小・中・地域の人たちとできて良いことだと思ふ。 ・昔からの地域行事の参加なども、良い経験になっていると思う。 ・今後は、社会でのきまり事、ルール等、組織でのあり方を教員を含め、子どもたちに教えてほしい。
安全管理	B	児童の安全確保と危機回避能力の育成を図る。	学校安全計画や防犯・防災計画の改善を図る。 家庭・地域・関係機関と連携した取り組みを進める。	校内の安全点検を行い、教職員の危機管理意識の向上を図る。 【学校評価アンケート】 防犯・防災計画の充実を図り実施する。 【学校評価アンケート】 家庭や地域と連携した安全確保の取り組みを行う。 【学校評価アンケート】	1学期に1回行えた。危険箇所はその都度修繕ができた。 津波避難訓練については、新たに保小で連携できた。 地域ぐるみで安全確保の取り組み(挨拶運動・交通安全指導)を進めることができた。	学期に1回の安全点検を毎月が増やし、危険箇所の周知を今まで以上に進める。 危機管理について理解を深める。 地域ぐるみの通学路の安全点検を行う。	・少ない児童、教職員でうまく学校行事を行っている。いじめや不審者等に注意して指導をお願いする。 ・道いっばいで通学(特に下校)しているのが時々見られるので、指導をお願いする。
特別支援教育	B	個に応じた支援体制の確立	特別支援の必要な児童への校内体制の確立と対応を図る。 学校・家庭・関連機関との連携を図る。	特別支援の必要な児童への共通理解と共通認識のもと支援を行う。 【学校評価アンケート】 特別支援教育学校コーディネーターを中心とする学校・家庭・関連機関と連携し、支援を要する児童への支援策の研究・実践をする。【学校評価アンケート】	児童理解を職員会議に位置付け、共通認識を図れた。 支援が必要な児童に対しては、家庭や専門機関と連携しながら支援策の研究・実践を進めることができた。	個別支援計画及び支援体制の充実を図る。 特別支援コーディネーターを中心とした専門機関との連携を進め、指導に生かす。 支援の必要な児童の成長した部分を取り上げ、要因や背景を共通理解し、効果的な支援を行う。	・教職員全体で子どもの様子を見て、ケアしようとしている。 ・子どもたちの細部に目を配り、少人数の良さを生かし、指導している。
研修	A	資質・指導力の向上	算数科を中心とした校内授業研究の組織的な実施。 外国語活動、国語、道徳の時間等の研究の実施。	わかる楽しい授業づくりを行うために、授業アンケートをもとに授業改善につなげる。 【授業アンケート・到達度把握検査】 コミュニケーションの基礎づくりとして外国語活動や国語の授業改善を行う。【学校評価アンケート】 生きる力を育むための心の教育の基盤としての道徳の時間の授業公開を行い、指導力の向上を図る。【学校評価アンケート】	1学期と11/7(公開)の研究授業において、数回にわたる事前研修と大学教授による指導、また授業後の相互評価や研修により、学校の課題に応じた実践と研究を深めることができた。 先進校視察研修への参加により、効果的な指導方法について研究が進んだ。 指導主事や先進校教諭を講師に招いた指導案検討会等を通して、授業改善を図ることができた。	授業構成の各段階ごとの内容や時間配分などに工夫を加え、児童の意欲を高め、理解を深める学習内容を検討し、授業構成の改善を図る。 研修で得た指導方法を生かして、児童の実態に応じた取り組みの具体化を図る。 他校研修を共有する時間を設定し、積極的に取り入れていく。	・日頃の教育活動に対し、意欲的に取り組んでいる。